

果物の里

南アルプスで果物を栽培する

南アルプスの高い地域は自然のままの木々が茂る一方、南アルプス市とその周辺地域には手入れの行き届いた果樹林とぶどう畑が広がっています。この地域は日本有数の果物の生産地で、サクランボ、桃、柿、スモモ、ぶどう、キウイフルーツ、梨、りんごを育てています。

理想的な気候に恵まれたこの地では、何百年も昔から果物の栽培が行われてきました。夏に雨が多く、冬は比較的乾燥している南アルプス地域は、年間を通して気温の変化が大きいいため、果物の糖度が高くなります。

桃、柿、他にも色々

南アルプス地域で育てられた桃は、東京の市場で大きなシェアを占めているため、南アルプス市が桃を市のシンボルのひとつに採用したのは意外なことではありません。山梨県日本最大のぶどうの産地でもあり、収穫されたぶどうの一部は、日本で最も歴史あるワイン生産地に数えられる甲州市でワインに加工されます。さらに、「貴陽」と呼ばれる地域原産のスモモもあり、この品種は世界で最も重いスモモとしてギネス世界記録に認定されました。貴陽の大きさは通常のスモモの3倍で、重さはりんご1個分にもなります！

他の地域の名物には、あんぼ柿と呼ばれる干し柿があります。干し柿は日本各地で人気がある冬のおやつですが、近くの八ヶ岳から吹く乾燥した冷たい風が、この地域の柿を他の地域では味わえないゼリーのような甘いお菓子に変えます。

山の付近にある果樹林は、色とりどりの果物に誘われてやってくる野生のサルから守るため、高いフェンスで囲まれています。しかし、観光客は脳炎で果物狩りができません。年齢を問わず果物好きなら誰でも低料金で地元の恵みをたっぷり味わうことができます。